

科学研究費補助金（学術創成研究費）公表用資料
〔研究進捗評価用〕

平成19年度採択分

平成22年4月27日現在

研究課題名（和文）総合社会科学としての社会・経済における
障害の研究
研究課題名（英文）A study on disability in a socio-economic
context: toward a unified social science
研究代表者
松井 彰彦 (Matsui, Akihiko)
東京大学・大学院経済学研究科・教授



推薦の観点： 創造的・革新的・学際的学問領域を創成する研究

研究の概要： 本研究は、1990年代から日本において新しい動きを見せている障害学を、経済学、とくにゲーム理論と結びつけ、総合社会科学としての社会・経済における障害の研究という新分野を構築することを目的とする。

通称 READ (Research on Economy and Disability)

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：ゲーム理論・計量経済学・障害学・障害の経済学

1. 研究開始当初の背景

近年、障害者の側からのソーシャル・インクルージョンの要請が高まり、中度・重度の障害者も積極的に街に出るようになったものの、経済合理性を無視したところに真の障害者政策はあり得ない。また、経済学において標準的な計量分析も障害問題の研究ではほとんど行われていないため、エビデンスに基づいた施策が行われていないのが現状である。他方、経済学においては、障害問題は周縁の問題とみなされ、顧みられることはほとんどなかった。

2. 研究の目的

本研究は、1990年代から日本において新しい動きを見せている障害学を、経済学、とくにゲーム理論と結びつけ、総合社会科学としての社会・経済における障害の研究という新分野を構築することを目的とする。

3. 研究の方法

全体の研究を5つの分析グループに分け、それぞれに核となる研究者を配置している。各グループを有機的に連関させるため、1～2ヶ月に一度の全体会合を通じて、意見交換をしている。

なお、この全体会合および成果の発信の場では、十分な情報保証とアクセシビリティの確保に努めている。

制度分析グループ： 国連の障害者権利条約の国内法へのインパクト等を内閣府の障害者制

度改革推進会議の動きをリアルタイムで追いつつ、分析している。

事例・実験分析グループ： 重複障害、女性障害者、顔にあざのある人々といった制度の狭間に落ち込む人々の事例研究をしている。「声」の効果の実験も行った。

計量（実証）分析グループ： 国内調査では1000部強の調査票を回収した。回収率は57%に達した。長期疾病者の経済調査を行った。

歴史分析グループ： 「近代化」のなかで「障害者」が生み出される歴史的過程を分析。

理論分析グループ： 帰納論的ゲーム理論、量子論的ゲーム理論など、ゲーム理論の最先端を開拓しながら研究を進めている。障害の社会理論の構築を行いつつある。

4. これまでの成果

プロジェクト開始早々に得られた最大の知見は、「障害」の広がりや外延を研究することの必要性の再認識であった。一言でこの問題を表せば、われわれは何をもって、「だれを『障害者』と呼ぶのか」という問いへの答えを模索しなければ、障害問題は読み解くことができない、ということである。

とくに小さな声しか出せない者たちは、健全者のための制度と「障害者」のための制度の狭間に落ちてしまい、光が当たらないという点に着目し、重複障害、女性障害者、顔にあざのある「ユニークフェイス」の研究に重点を置き、この点を明らかにした。

東京大学医科学研究所と共同で慢性骨髄性白血病患者の経済調査にも着手し、650の

調査票を得た（回収率 50%超）。これによって、障害者と長期疾病者の垣根の問題が浮き彫りになった。

人々の意見を集約して「障害」の定義を与えることは不可能であることが理論的に示された。観察者が観察することで状態が変わるという問題に量子論の観点から取り組んだ。

イギリス・アメリカ・ドイツ・日本といった国の歴史資料を解説し、「障害」概念の形成・普及・変容の実態を解明した。

もう一点、大きな成果は統計調査である。本研究課題で実施している統計調査は、経済と障害に着目し、特定障害種別に偏らず、標本数、回収率も計量分析に耐え得るという点をすべて兼ねている点で、日本国内では初めての試みである。また、海外でも、近年、ここまでの規模の統計調査は行われていない。集計表の作成と統計解析により、これまで、数量的に明確にされてこなかった障害児・者とその家族の社会的困難などについて、定量的な結果が得られることが期待される。

これに先んじて、実証分析では、ネパールのデータを用いて、教育の収益率を計測し、健常者に比して障害者への教育投資の効率が有意に高いという結果が得られた。

5. 今後の計画

ネパールとフィリピンを対象に海外調査を行う。得られた統計データを元に計量分析を行う。各グループの研究をさらに進展させる。22年度に最低2冊、23年度に最低1冊の研究成果を刊行する。

6. これまでの発表論文等

[1] Toshiji Kawagoe and Akihiko Matsui, "Economics, Game Theory and Disability Studies: Toward a Fertile Dialogue," forthcoming in A. Azzopardi and S. Grech eds., *Inclusive Communities: A Reader*, 2010.

[2] Yohei Sekiguchi, Kiri Sakahara and Takashi Sato (2010) "Uniqueness of Nash equilibria in a quantum Cournot duopoly game," *Journal of Physics A: Mathematical and Theoretical*, 43, 145303

[3] Renu Addlakha・Stuart Blume・Patrick Devlieger・Osamu Nagase・Myriam Winance eds., "Disability and Society", *Orient Black Swan*, 2009

[4] 田中恵美子, 『障害者の「自立生活」と生活の資源』生活書院 2009

[5] 西倉実季, 『顔にあざのある女性たち―「問題経験の語り」の社会学』、西倉実季、生活書院、2009（山川菊栄賞）

[6] Noriko Seyama and Kumiko Usui, "Poverty and Women with Disabilities" *Voices from*

Japan No. 23 :Tackling "Invisible" Women's Poverty in Japan Asia Japan Women's Resource Center pp.28-30, 2009.

[7] Ryoko Morozumi, "The Employment Rate of the Graduates from High Schools for the Physically Disabled, Intellectually Disabled, and Seriously Diseased," presented at 2009 Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society, Aug. 3-5, 2009.

[8] Kamal Lamichhane and Yasuyuki Sawada, "Disability and Returns to Education in a Developing Country", presented at the same meeting as above.

[9] Soya Mori, "How Do Persons with Disabilities Earn a Living?: Findings from the Field Survey Conducted in Metro Manila, the Philippines", presented at the same meeting as above.

[10] Yohei Sekiguchi, "Compensation and Responsibility: General Impossibilities and Possibilities," presented at the same meeting as above.

[11] Satoshi Fukushima, "The Deafblind and Disability Studies" presented at Todai-Forum at Manchester Metropolitan Univ. Apr. 30, 2009.

[12] Satoshi Kawashima, "The Term 'Disability' in Discrimination Law," presented at the same forum as above.

[13] 金子能宏「障害者福祉施策の経済効果」『季刊社会保障研究』第44巻第2号, 212-223頁, 2008年, 査読無

[14] Tetsuo Yamamori, Kazuhiko Kato, Toshiji Kawagoe, and Akihiko Matsui, "Voice Matters in a Dictator Game," *Experimental Economics*, vol.11, 336-343, 2008

[15] Akihiko Matsui, "A Theory of Man as a Creator of the World," *Japanese Economic Review*, vol.59, 19-32, 2008

[16] 松井彰彦, 「経済学・ゲーム理論と障害」, 『障害学研究』(明石書店), 第4号, 8-33頁, 2008年. 査読有

[17] 川越敏司, 「経済学と障害学は対話できるか?」, 『障害学研究』(明石書店), 第4号, 33-62頁, 2008年. 査読有

[18] 倉本智明, 「対話と亀裂―特集によせて」, 『障害学研究』(明石書店), 第4号, 6-7頁, 2008年. 査読有

[19] 川島聡・東俊裕「障害者の権利条約の成立」長瀬修・東俊裕・川島聡編著『障害者の権利条約と日本―概要と展望』生活書院, 11-34頁, 2008年

ホームページ

<http://www.read-tu.jp/>